

# 特別支援学校における 主体的な学びの在り方

～人生の質を高める教育～

広島県(12月27日)

元愛媛大学教授 上岡 一世

## 特別支援教育が目指す方向性

児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育

「生きる力」「働く力」を育てる教育

「意識」「主体性」「意欲」を育てる教育

「基本行動」「生活意欲」「働く意欲」を育てる教育

自ら社会参加(生活に適應)する

人生の質の向上

## 人生の質を高めるために何を重視 しなければならないか

- 存在価値の向上
  - ・地域学習 ・本人の努力する学習
- 社会的役割の向上
  - ・感謝される活動 ・貢献する活動 ・役割の主体的遂行
- コミュニケーション力の向上
  - ・対人関係の重視 ・集団への適應

## 地域で存在価値を高める(地域学習の設定)

- 地域学習とは
  - 「日常的に地域の人にかかわり生活の幅、生活の質を高める学習」「地域の人の意識を変える学習」
- 存在価値を高めるのが目標
  - ・障害のある人を理解してもらうのが目標ではない
- 地域の人からの積極的な働きかけが重要
  - ・子どもが地域に慣れる体験が重要なわけではない。
  - ・地域の人子どもに慣れる体験が重要である
  - ・地域の専門家を活用する
- 効果的な地域学習の実際

## 自分の努力で存在価値を高める学習

- 技能検定の実施
  - ・子どもの変化
  - ・保護者の変化
  - ・教師の変化
  - ・職場の変化
  - ・特別支援教育の充実
  - ・就職率のアップ
  - ・認定証の価値
  - ・今後の課題

## 社会的役割を引き上げる学習

- 交流学習の改善
  - ・対等の関係
  - ・してもらうからしてあげる関係
- 生活の成立を目指す学習
  - ・役割を果たす生活
  - ・貢献する生活
- インクルーシブ教育の理解
  - ・すべての子どもに必要な教育

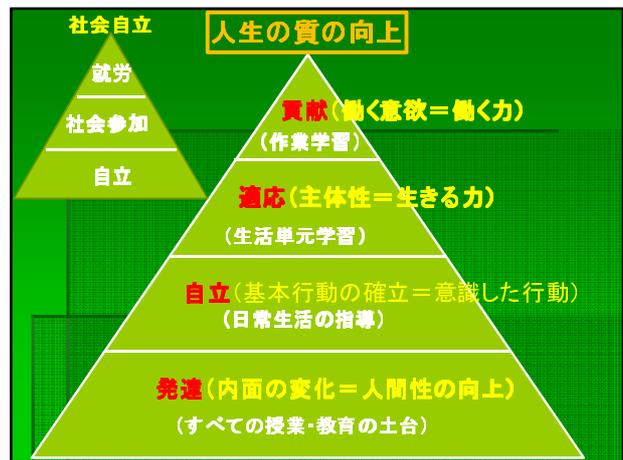
## コミュニケーション力が向上する学習

- ことばは重要？(関係性)
- 機能する力とは？(主体的・目的的行动)
- 知的理解力と行動的理解力(バランス)
- コミュニケーション・マインド(仕方・方法)
- 相互作用の成立(分かる、伝わる)
- 高等部生のコミュニケーション力を高める事例  
(ポスター発表、テーマワーク)

## キャリア教育を取り入れると授業では4つの支援・評価が重要

- 発達する支援・評価  
・意識してできる ・主体的にできる ・意欲的にできる
- 自立する支援・評価  
・思考、判断、見通しを伴う主体性  
・自ら支援を求める主体性
- 適応する支援・評価  
・職業生活への適応 ・社会生活への適応
- 貢献する支援・評価  
・貢献の実感の積み重ね ・質の高さを求める

### (評価・検証の4つの視点)



## 「生きる力」・「働く力」とは

- 生きる力とは  
生活の質(生活意欲)を高めること  
・思考、判断、見通しを持って主体的に活動する力  
・一般化する力  
・地域生活に適応する力
- 働く力とは  
職業生活の質(働く意欲)を高めること  
・目的、目標の達成に向けて努力する力  
・貢献できる力  
・職業生活に適応する力

## 日常生活の指導と意識の向上

- 着替えができることよりも着替えをしなければならぬという意識を育てる
- 正しく、確かにしなければいけないという意識を育てる
- 自分のことは自分でしなければいけないという意識を育てる
- 着替えの意味、目的を理解して行動しなければいけないという意識を育てる(パターンでない行動)

### 基本行動の確立

- ・周りに受け入れられる行動
- ・周りを意識した行動
- ・周りに認められる行動

### 意識を育てる学習

- ・生活の流れを重視した学習
- ・意味、目的性を理解した学習
- ・自分のことは自分で学習

## 意識して行動できる「日常生活の指導」とは

- 指示したり、行動させることでプラスの意識が育つか(なぜ指示が必要?)
- ことばでの指示の効果を確認
- 人は指示を受けるとどういう反応をする?
  - 3つの反応(イメージ化の違い)
- 映像化ができる子どもとできない子ども
- 自ら見て学ぶ力を身につけること(具体例)
- 重視すべきこと(記憶の再生)
  - 行動を思考する支援をする
  - 自ら気づく支援をする
  - 正しい、確かな行動を意識する支援をする

## 生活単元学習と主体性の向上

- させられる生活を改め、自らする生活を当たり前にする
- 役割を果たさなくていい生活や指示されながら役割を果たす生活を改め、主体的に役割を果たす生活を当たり前にする
- 誰かが関わらないと成立しない生活を改め、誰かが関わらなくても成立する生活を当たり前にする
- 手を出す、口を出す生活を改め、必要に応じて子ども自らが支援を求めてくる生活を当たり前にする

### 生活意欲の向上

- 生活課題、役割を理解し、主体的に遂行する体験を積み重ねる
- 成功体験を積み重ねる

### 主体性を育てる学習

- 子どもの実態に合った生活課題、役割の設定
- 全体と部分の両方を理解した学習

## 生活に適應する生活単元学習とは

- 子どもの生活に根ざしたもの
  - 意味の分かる生活・部分の適應ではない
- 子どもの興味・関心の高いもの
  - 生活内容の理解とできる、分かる生活課題がポイント
- どの子も取り組める活動であること
  - お互いが役割、課題を果たすことで、お互いを認め合うことが重要
  - 子ども同士のかかわりが増えることがポイント
- 子どもが主体で支援が中心
  - 子どもできる、分かる、見通しの立つ生活・子ども主導
- 自ら課題を解決する学習の設定
  - 自ら課題を解決する生活が当たり前の生活・させられる生活
- 意欲の持続がポイント
  - 意欲がなくなったときに学習効果がなくなった時

## 作業学習と意欲の向上

- スキルよりも意欲に焦点を当てる
  - 職場は高いスキルよりも高い働く意欲を求めている。高いスキルだけでは職場に適應できない
- 人間性を育てる
  - 就職できても維持ができない原因は人間性(自覚、責任感、目的意識等)が育っていないところにある
- 貢献の体験を積み重ねる
  - 「黙って作業をする」「根気よく作業をする」ことも必要だが、「貢献を実感できる作業をする」ことがもっと大切である

### 働く意欲の向上

- 一人で質の高い作業ができる
- 自らが努力してスキルを高める

### 働く意欲を育てる学習

- 自覚、責任感、目的意識が持てる学習
- 貢献を実感できる学習

## キャリア教育を取り入れた作業学習

- 作業学習は働くことを体験する学習ではない
- 職業生活の質(働く力)を高める学習である
- 職業生活の質を高めるには職業生活に適應することが重要である
- 職業生活に適應するためには、2つの適應が大切である。一つは仕事への適應、もう一つは職場の仲間への適應である
- 仕事への適應は貢献を実感する作業学習を行い、働く意欲を高めることがポイントである
- 職場の仲間への適應はソーシャルスキルを身につけることがポイントである
- 職業生活の充実なくして人生の質の向上はあり得ない
- 一人で質の高い作業ができ、職場の人に受け入れられる対人的行動を身につけている

## 働く意欲を高める「作業学習」とは

- 存在価値を高める
    - 自覚と責任感を評価・認められる学習(名人検定)
  - 真摯さを重視する
    - 真摯さの持続(貢献の実感)＝働く意欲
  - 量よりも質を重視する
    - 作業の質で貢献を実感する・質を上げることを意識する・量は自分
  - 自分がしている作業の重要性を理解する
    - 目的的な作業ができる・ゴールに向かって作業する
  - 自己評価による成功体験
    - 自己評価の重要性・仲間の評価・教師の評価・3者の関係性
  - 信頼関係づくりを進める
    - 仕事は信頼関係で成り立っている・信頼関係の育て方
- 働くとは「責任を持って質の高い作業をする」こと  
質の高い作業とは「一人で主体的に正しい、確かな作業ができる」こと

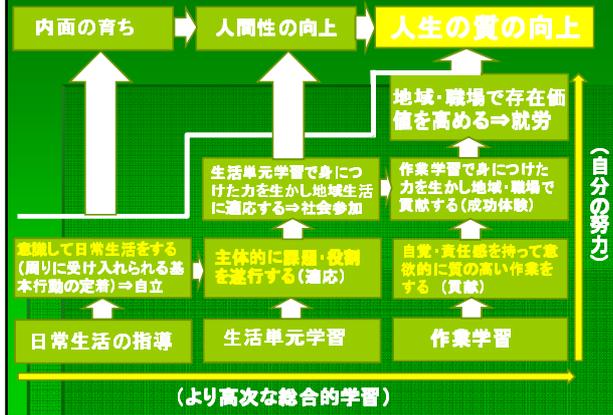
## 自ら社会参加(適応)する教育

- 社会参加させる(生活に適応させる)指導は人生の質を高めない
- 自ら社会参加するためには自ら行動する力(意識、主体性、意欲の向上)が重要である
- 自ら社会参加するとは、子どもにとってふさわしい生活の中で、意識的、主体的、意欲的に必要な役割、課題を果たすことである

## 連続性・総合性・積み重ねを重視した教育(特別支援学校の意味)



## 「人生の質を高める実践とは」



## キャリア教育の視点から考える授業改善

- できる・分かる・見通しの持てる授業
- 学習活動がフルに確保されている授業
- させられるのではなく、自らやる授業
- 生活の質、集団の質を高めることを意識した授業
- 役割・課題を主体的に果たす授業
- 子どもが思考、判断、工夫ができる授業(ルーティン化でない授業)
- 目標が持てる授業
- 教師のかかわりが少ない授業(子どもの活動が目立つ授業)

## キャリア教育の視点から考える支援・対応の改善

- ・子どもが気づき行動し始める支援
- ・支援のねらい、目的を明確にして行う支援
- ・成功体験をする支援
- ・スキルよりも主体的行動を優先する(主体性をあたり前にする)
- ・教材、教具、構造化は発達の視点を重視する
- ・子どもは教師がそばにいないほど安定しない
- ・学習中は身体接触(手つなぎ等)は避ける
- ・見て行動するのが認知の最初
- ・教師のことはでの働きかけは機能しているのか検討する
- ・課題、役割がクリアできたら、即新たな課題、役割を設定する
- ・目標行動を設定して取り組み、その過程を必ず評価する
- ・学習の終わり、終わった後の行動が理解できるようにする
- ・すべての生活、すべての年齢において基本行動を重視する

## キャリア発達への促進

